

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## “ 「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”

### 「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第15回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第5弾」が【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の現状』をダイジェスト版として紹介することとした。

「7.22宗形明・長野講演より」

## この5年間の組織混乱の最高責任者は「松崎明」

7月17日にJR連合が「JRには革マル派はいらない！民主化完遂」というタイトルで都内において集会を行なった。その時の西岡氏の話によると「浦和事件の首謀者は松崎明だ」と言っている。それは松崎氏の「鉄は熱いうちに打て」という言葉からこの事件は始まったということも言っている。

「東労組の異常な冤罪運動は、7人のためではなく松崎氏が自分を守るためにやっている」という話もしていた。「会社経営陣も有罪が間違いないと思っていたからこそ、富田常務や清野社長の発言があった」という話をしてしたが、私もその通りだと思う。

5年の混乱も、長野の組織混乱についても松崎氏個人の思想・信条によるものである。「鉄は熱いうちに打て」と松崎氏が言った。それを聞いた者達は、その意味するものは何か、自分の親分が何を望み、何をしてもらいたいかをすぐに解釈する。浦和電車区事件からすると「Yさんをやっつけろ」ということになる。どの地本もそのようなことが起こるかということそうではない。例えば三鷹電車区の佐藤久雄氏事件が起きたが、あれは佐藤久雄氏が我慢し裁判を起こさなかったから事件にならなかった。裁判に持ち込めば逮捕者が出た。・私の感じでは大宮地本はもろにやったからあのような事件が起きた。それは常に松崎氏が教え込んでいる「積極攻撃型組織防衛論」。それが出てしまう。だから浦和電車区事件の最高責任者は松崎氏であることは間違いない。だから守っていかなくてはならない。「JRには革マル派はいらない」集会で、西岡氏が「三鷹電車区の佐藤久雄氏の事件は完全に刑法の危険往来罪である。対向車がパッシングしたり、信号を隠したりしたことは実話である。警察がしっかりとした捜査をしていれば成立した事件である。高崎支社では国労からの拉致事件があったが、あれも群馬県警が真剣に取り組んでいればあのような事はなかった」と言っていたが、取組めないのは週刊現代にも出ていたが黒いコウノトリ事件、現職の警備局長まで関与する。もっと上のほうで影響力を及ぼすような流れもあった。

松崎氏のグループは「浦和事件はたいした事のない事件である。警察は本人が望みもしないのに警察が調書を書いてやった」としきりに言っている。しかし、あれはデタラメもいいところであり、本人は辛くてどうしようもなくなり警察に相談に行っている。埼玉県警が労働組合の問題であるとして動かなかった。警察が本気でもっと親身になっていれば事件の展開は違っていた。そんな組合に対して私は頭にくるが、恥ずかしげもなく「世界に冠たる東労組だ」とか「世界に冠たる・・・」という言葉が非常に好きな組合である。そんな言葉はどこから出てくるのだろう。「こんなことをやっている世界の唯一の労働組合」と言うならばわかるが、世界に冠たる労働組合とはならない。こんなことをやっている労働組合は日本中探してもどこにもない。長野だけでもこんな馬鹿な事をやっているが（長野地本役員・組合員33名の制裁者一覧表を指して）、決してやっている人は馬鹿な事などとはちっとも思っていない。

【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”（高木書房）P.136～P.138】